

| 令和2・3年度 神奈川県立学校 第三者評価実施報告書 | | | |
|----------------------------|--|---|---|
| 評価実施校 | 茅ヶ崎高等学校 全日制 | 課題解決に向けた取組状況への評価・助言 ＜評価委員＞ | 課題解決に向けた取組の成果と課題 ＜実施校＞ |
| カテゴリ名 | インクルーシブ教育実践推進校 | | |
| 課題1 | <p>新学習指導要領を踏まえた教育課程編成、個別教育計画に基づく指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領の実施に向け、学校設定科目を含めて、生徒や地域の教育力を踏まえた教育課程編成を行うことが重要。 ・連携生徒の学習や生活等において、個々の生徒に必要な合理的配慮の提供が重要であり、個別的教育支援計画、及び個別教育計画の作成・活用の在り方を検討することが必要。 ・生徒が授業以外での学習活動にも積極的に取り組めるよう、より一層支援を工夫することが望ましい。 | <p>令和4年度からの新学習指導要領の実施に向け、管理職の方針のもと、教育課程の編成を着実に進めることができた。学校設定科目「人とくらし」はインクルーシブ教育実践推進校特別募集により入学した生徒（連携生徒）のニーズに応じた内容となっていると思われる。これまで、「人とくらし」は連携生徒が履修することとされているが、一般募集により入学した生徒（一般生徒）もこの科目及び学習内容に関心を持っている様子であり、一般生徒もこの科目の内容を学習できるように時間割の調整等を図り、多様な生徒が共に学ぶことができる環境を充実させようとする取組を計画している点は評価できる。今後、生徒が共に学び共に育つ学習活動が一層進み、インクルーシブ教育の理念が効果的に生かされると考えられる。</p> <p>現在、ティーム・ティーチング(TT)を取り入れた授業を実施しているが、効果的なTTのあり方については、引き続き校内体制も含めた検討が必要であると思われる。また、授業のユニバーサルデザイン化に関する研修等、支援教育の充実につながるような研修についても検討し、実施していくことが必要だと思われる。</p> <p>連携生徒について、個別教育計画を作成し、個々に必要な合理的配慮を明確にして教員間の共通理解を図りながら指導を行っている点は評価できる。個別教育計画の作成に当たっては、学校において年間スケジュールの明確化、記載例を記したマニュアルの作成、スクールカウンセラー等の専門家からの助言を得ながら作成し、個別教育計画を活用した指導の充実を努めている。今後は、連携生徒に限らず、作成の必要な生徒について個別教育計画を作成することも課題になると考える。また、中学校からの引き継ぎを含めたシステムのあり方を検討していくことも必要であると考えられる。今回の学習指導要領改訂で議論された「学びの連続性」についても考慮することは重要であり、個々の生徒の学びが充実するよう、引き続き各教科等の学習内容についても検討していくことが必要である。</p> <p>大学生や地域人材を学習場面で活用することによって、放課後学習などの実施を通じて生徒の多様なニーズに応えられるような工夫も課題になると考えられる。現在、大学生の協力を得られる環境になった点は、学校の努力の成果だと評価できる。この協力の輪を拡充するための努力と工夫を求めたい。</p> <p>「課題3」でも指摘しているが、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、地域人材や事業所等の積極的な活用を求め、その具体的なあり方を工夫されたい。</p> | <p>＜成果＞</p> <p>今年度は、令和4年度からの新学習指導要領実施に向け、教育課程の最終確認を行った。今年度の目標にある、生徒の多様性に応える教育活動の具体的な検討として、令和4年度一般募集入学生から週1時間「主体的な学びの時間」を設定し、教科横断型の主体的な学びを通して生徒の幅広いニーズに対応することとした。</p> <p>また、次年度より1人1台端末が導入されることから、自ら調べた内容を自身の端末にポートフォリオとして蓄積し、1年間の自身の成長を実感できる時間として、有効に活用したいと考えている。</p> <p>また、本校ではこれまで、連携生徒と一般生徒が共に学ぶ中で効果的に学習補助を行うTT体制による授業を行っている。さらに次年度は、PC端末を効果的に活用し、個々が持つ多様な力を存分に発揮してもらいたい。</p> <p>＜課題＞</p> <p>連携生徒の個別教育計画作成について、年間のスケジュールや作成に向けての研修を年度当初に実施した。今年度は、異動者も多かったことから、理解を深める目的で研修を行ったが、記載については要領などを把握し共通理解を図ることができた。</p> <p>しかしながら一部では、概念的でありかつ教科側からの視点のみで記載されている面も見られた。今後の課題として、個別教育計画の記載においては、生徒個々の特性を念頭においたうえで、個別の目標として手が届く設定を記載し、日常の授業の中で担当教諭が生徒を細かく見取ることを課題としたい。また、個人差による学習進度に応じて、各教科担当者が個々の生徒に必要な合理的配慮を明確にして作成することが期待されている。</p> <p>そのためには、連携生徒の出身中学校からの引継ぎが重要である。年度の当初には、取得した情報を共有する研修会を開催しているが、1～2時間の情報共有だけでは理解の定着が困難であるため今年度は、研修で話しているものを原稿にしてパスワードをかけ厳重に管理したうえで、「学びの連続性」を意識した個別教育計画の作成を目指したい。</p> |
| R3指標 | <p>次期教育課程の実施に向けて、学校活動全般の活性化と、生徒の多様性に対応した教育活動の実践方法を具体的に策定できたか。生徒の希望を踏まえた個別教育計画の記載について、校内システムの確立に向けた検討が行えたか。</p> | | |
| 課題2 | <p>連携生徒の進路支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携生徒の進路指導に関して、特に高等学校において障がいのある生徒への支援や指導を充実させるためには、特別支援学校との連携強化が必要であり、学校間連携、あるいは企業等の関係機関連携を促進するための体制等について引き続き検討する必要がある。 ・社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、学校全体としてキャリア教育をどのように進めていくかを検討することが必要である。 | <p>連携生徒を含め、生徒が希望する多様な進路状況に対応しようとする取組がみられる。連携生徒の進路指導に関して、キャリア教育に係る学校設定科目（「生活と進路」等）を設定しての指導や、長期休業中の取組などの工夫がみられる。課題とされていた特別支援学校や企業等との効果的な外部連携体制の構築についても取組を進めており、地域の特別支援学校や社会自立支援員等と連携しながら生徒の希望する進路の実現を目指している。職業的自立を促すためには、地域の事業所等との連携による就労支援やキャリア教育が欠かせない。例えば、職業人講話のほか、事業所職員による模擬面接の実施なども考えられる。今後、インターンシップや比較的实践しやすいキャリア講話等、さらに地域人材等を効果的に生かした指導の工夫を検討することが必要になる。そのためにも、学校運営協議会の積極的な活用を努めることが求められる。また、教職員の異動に伴い、研修の充実も課題となる。その場合、特別支援学校との共同による研修の企画も検討してほしい。</p> <p>キャリア教育に関しては、連携生徒に対する取組だけでなく、「キャリア教育実践プログラム」をもとに学校全体で取組、各教科等についてキャリア発達に関わる内容を整理しつつ、具体的な取組を検討している点は評価できる。学校として、キャリア教育に関する全体計画を共有しながら、卒業までに育成を目指す資質・能力を明確にし、引き続き取り組んでほしい。また、連携生徒の卒業後のフォローアップや、進路先機関との連携体制についても引き続き検討を進めてほしい。</p> <p>連携生徒の多様化に伴うきめ細かな対応が課題とされ、そのための取組としてポートフォリオの整備が計画されている。令和3年度はそのための試行に取り組んでいるので、次年度にはポートフォリオの充実を努めて欲しい。特に、ポートフォリオの作成に留まることのないよう効果的な活用方法を工夫されたい。その場合、特別支援学校の教員経験者の位置づけの明確化と効果的な生かし方の工夫が重要になる。</p> | <p>＜成果＞</p> <p>連携生徒が希望する多様な進路状況に対応するため、特にキャリア教育に係る学校設定科目「生活と進路」の指導内容をインターンシップ、夏季休業期間中の実習において、事前学習からきめ細かく生徒への支援ができた。生徒は学校での座学を実践の場でのように発揮できるか楽しみながら訪問していた。</p> <p>地域の事業所等との連携については、今年度、地域就労援助センターへの訪問、ハローワーク主催の模擬面接等を行いご協力をいただいた。また、連携生徒のポートフォリオ作成とその活用については、生徒ごとの紙ファイルをポーフォリオとして管理している。授業や実習の終わりにごに振り返りを行い、次の実習のめあてを作成する際には、前回は振り返るなどして継続的に使用している。</p> <p>キャリア教育については、連携生徒だけに留まらず、「キャリア教育実践プログラム」を念頭に置きながら年間の活動を行ってきたが、従来型の学年単位での進捗に委ねられている側面もあった。職員が本校のプログラムを再確認しつつ、学年進行に落とし込む動きのある体制づくりを強化したい。県立茅ヶ崎養護学校との連携事業については、企業見学会を合同で行い、本校生徒のケース会議に参加協力をいただきながら連携をとっている。</p> <p>＜課題＞</p> <p>キャリア教育については、次年度の「キャリア教育実践プログラム」作成段階では、スクールポリシーを踏まえる点や、昨年度のプログラムの反省点等を踏まえながら、年度当初のグループ目標を作成する必要がある。また、連携生徒の卒業後のフォローアップに係る業務では、次年度からインクルーシブ支援員の対応も可能となることから、職員の業務分担においても周知が必要となる。</p> <p>特別支援学校の教員経験者を研修講師とした人材活用についての課題は、年度当初だけでなく定期的に発表を求め、自身の経験を踏まえて本校での支援にどのように生かし役立てられるか感想や意見を話す機会を設けた。</p> |
| R3指標 | <p>生徒のニーズに合わせた進路指導を行うため、高校生活を通したポートフォリオを整備するなど組織的な進路支援体制について検討が行えたか。</p> | | |
| 課題3 | <p>地域等との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校の場合、シンクタンクとしても学校運営協議会を活用することが期待されるので、外部の専門家として福祉や医療などの関係者を1名加えてもよいだろう。 ・地域連携は防災中心のようであるから、今後は、学習活動(授業も含む)の支援などにおいても、より一層地域の教育力を活用するなどの方策を検討されたい。 | <p>これまで厚木市の農業関係者の協力を得て校内の畑作りに取り組んだ点は評価でき、また学校運営協議会を活用し、地域から情報を得てきている点では地域連携に対する取組意欲は感じられる。また、動画等を作成し、中学生に対する情報発信を工夫している様子はうかがわれる。しかしながら、インクルーシブ教育を推進する上では学校周辺の地域住民や事業所等との連携については多面的に展開することが重要になる。言うまでもなく、令和2年・3年はコロナ禍にあり、地域連携の推進が困難であったことから、従来の取組をさらに発展させるには限界があったと思われる。</p> <p>そこで、今後、以下の取組を期待したい。</p> <p>①授業(連携生徒及び一般生徒対象)における地域人材の積極的な活用である。学校設定科目はもちろん、「総合的な探究の時間」やその他教科・科目においても、講話や指導場面で地域人材や事業所等の関係者を積極的に活用し、地域に根付いたインクルーシブ教育を展開するのである。</p> <p>②地域住民等が気軽に来校できるコーナー等を設け、インクルーシブ教育に対する地域の理解を深めることである。このコーナーは常時開設せずとも、一定の時期に開設し、生徒(連携生徒に限らず一般生徒も)と住民が交流できる場としてもよい。その場合、対話の場の設定や生徒の作品展示などを実施するよう工夫をすれば取り組みやすいだろう。</p> <p>③学校運営協議会のさらなる活用を期待したい。学校運営協議会は保護者や地域のニーズを聴取する仕組になると共に、専門家委員からアドバイスを得るための仕組としても機能することになるので、会議の回数を充実させ、また必要に応じて実働組織(専門部会)を設けてもよい。例えば、学校支援部会や地域学校協働部会などを設けている例は珍しくない。</p> <p>なお、当校はこれまで地域連携に関する取組を重視している様子にはうかがわれるが、コロナ禍のためか、教育指導場面においては今ひとつ深まりが見出されていない。いわば発展途上の段階にあると言ってよい。むしろ、管理職等の地域連携に寄せる思いは感じられるので、コロナ禍収束後にはこれまでの取組を前提にして、上記のような取組を進めることを期待したいところである。</p> | <p>＜成果＞</p> <p>学校運営協議会では、地域や中学生への積極的な情報発信をすべきとのご意見をいただいた。コロナ禍でもあり集会形式による学校説明会が開催されず、当校公式HP上で学校紹介や部活動紹介の動画を掲載し、広報活動を行った。また、e-kanagawaシステムを利用して、学校見学会の募集を行うなど、募集方法の改善を行いながら広報活動を展開した。地域との連携活動については、校外の清掃活動を実施することができなかった。</p> <p>地域自治会長である協議会委員からは、自転車通学者の交通マナーの徹底について意見があり、全校に向け放送で注意喚起を行うなどの対応をとった。</p> <p>また、近隣企業の工場長である協議会委員からは、出張授業や企業訪問などの交流で企業と学校をつなぎ、生徒のキャリア意識の向上につながるなどのご提案をいただいた。しかし、コロナ禍で訪問が感染リスクにつながる懸念から、調整前に見送ることとした。</p> <p>学校設定科目「人とくらし」では、連携生徒にとって、外の畑等での活動は楽しみにしているようで、旬の野菜を観察、栽培そして収穫することで多くの喜びを感じているようだった。</p> <p>＜課題＞</p> <p>現在のところ、インクルーシブ教育の推進に向け、4月に共生社会講演会を開催しているが、全生徒を集める形式の設定が困難なため、ZOOMなどのオンラインを上手に活用して、地域人材の活用を図りたいと考えている。また株式会社TOTOの茅ヶ崎工場では、バリアフリー対象ユニバーサルデザインを意識した製品の研究を行っており、実際の企業活動現場からの話は貴重な経験となることであろう。これもZOOMなどの活用で実現できるよう調整したい。</p> <p>ポストコロナの地域連携事業企画は、当校においても重要な課題と認識している。地域住民や中学生が、感染を広げない形で本校発信の地域連携事業をどのようにして企画することができるか。校内の体制やグループ業務を見直して、発展的な企画が継続できるよう位置付けたいと思う。</p> <p>学校運営協議会の運営についても実働組織(専門部会)を活用し、地域との交流がどのような形で実現できるのかを議論したい。</p> |
| R3指標 | <p>保護者、近隣小中学校及び地域の方々へ、本校の活動について適切な手段を使用して、積極的に発信できたか。</p> | | |
| | <p>総括評価(これまでの訪問①～④を踏まえた課題解決の取組状況に係る評価) ＜評価委員＞</p> | <p>総括評価を踏まえた次年度の学校運営に係る改善点および改善方法 ＜実施校＞</p> | |
| | <p>当校は、課題1から課題3までの指標に基づき、地道かつ着実に取組に取り組んできている。ただ、コロナ禍にあって、各取組が計画通りに進められなかった点も認められるが、できる範囲で工夫を重ね、指標に向けた取組の工夫を努めている点は評価できる。今後、「何を埋めるか・何を正すか・何をつくるか」という3つの視点から取組の充実を図って欲しい。つまり、現状で不足している点を探ってこれを補い、課題視される点を見出しこれを改善し、さらに新たな取組を模索するよう努めることが課題になると考えられる。</p> <p>今後、指標等を設定する際は、ゆるやかでよいので定量的な目標を設定することも検討されたい。</p> | <p>インクルーシブ教育実践推進校として5年目を迎えたが、今年度は理念を共有した発足当初の職員が多く異動となった。多くの職員をリードする推進役が多くの業務をかかえている現実がある。</p> <p>今後は、他校等を参考に、推進校の取組みを改めて確認し、目標となる理念を職員間で時間とって共有したい。また、校内組織やグループ業務を見直し、連携事業の推進役を進める部署を再検討して定め、目的を明確に示して、業務を継続したい。</p> | |